

医療から地域へ広がるダウン症児と家族への支援個別支援、親の会との連携、フォーラムを通じた地域実践

山梨県立大学 看護学部看護学科 石橋みちる

山梨ローカルでダウン症のあるお子さんの“子育て”支援をしています。
一緒に活動下さる方をいつでもお待ちしております。

目的 ダウン症のある子どもと家族が地域で生き生きと暮らしていく中で
必要となるケアやサポート体制を考え、整え、誰もが暮らしやすい地域をつくる一助となること

実践1 ダウン症の赤ちゃん体操指導 出生後～歩行開始まで児の発達支援、母親家族の支援の枠組み
児の運動発達の評価を行い、必要な体操をご家庭で実践できるように支援する



藤田弘子 ダウン症の赤ちゃん体操
親子で楽しむふれあいケア。
大阪・メディカ出版、2000

- ・2014年～「ダウン症の赤ちゃん体操」@国立甲府病院。
 - ・2023年～「やまなし・ダウン症の赤ちゃん体操教室」@訪問支援
- 参加家庭：延べ約70組

ダウン症のある赤ちゃんは、筋肉の緊張が低いことや関節の柔らかさなどから、運動発達がゆっくり進む傾向がある。体操では、首すわり、寝返り、おすわり、床での移動、つかまり立ち、歩行への関わりを家族と実践し、少しずつステップアップする。発達の時期や順序には個人差があり、その子の体調や興味に合わせ、遊びや日々の関わりの中で、動く楽しさと経験を重ねていくことが大切である。

赤ちゃん体操の実際(11か月児)



11ヶ月 11月 お母様より提供

実践2 山梨ダウン症フォーラム

ダウン症のある人と家族、支援者が出会い、ケアやサポート体制を考える場

例年、親の会と実行委員会を結成し、家族の考えたいことから企画・実施
参加者平均120名程（家族、当事者含） 専門職：医療、教育、福祉、保健等

今までの開催テーマ

「出生から家庭で育て始めるころ」
「ダウン症のあるお子さんのための離乳についてのすすめ」
「ダウン症のある子どもたちとの楽しいコミュニケーションのために」
「からだづくり・体力づくり」
「なんとかなるさ」ーダウン症のある人、兄弟姉妹、親、祖父母の思いを語る会ー
「大人になるには」 「ダウン症とともに」 「みんなどうしてる？」
「日々、笑顔ですごせるように」 「ことばを育てる」
「きょうだいはきょうだい」 「教育について、話してみよう」

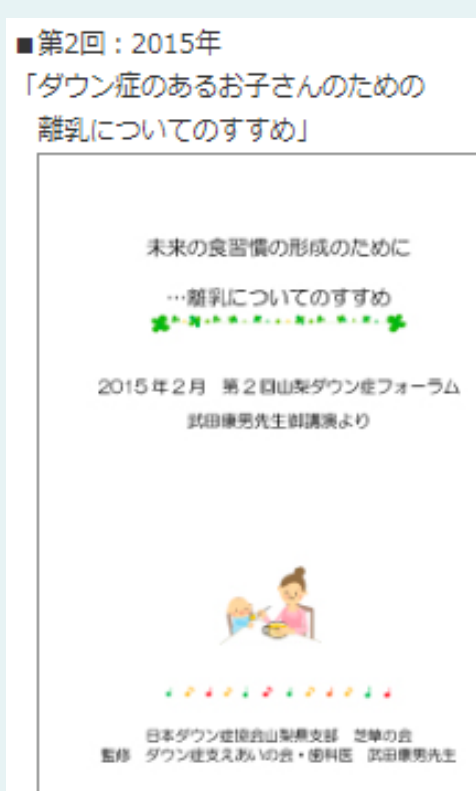
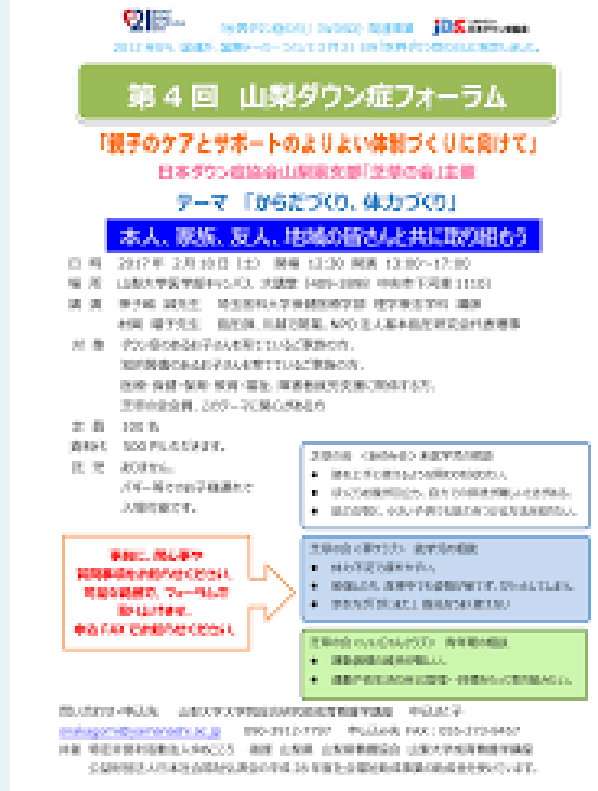
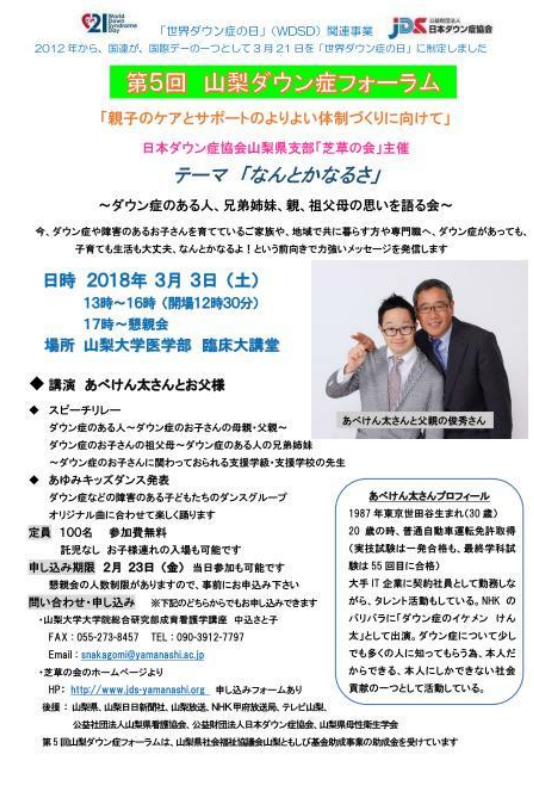
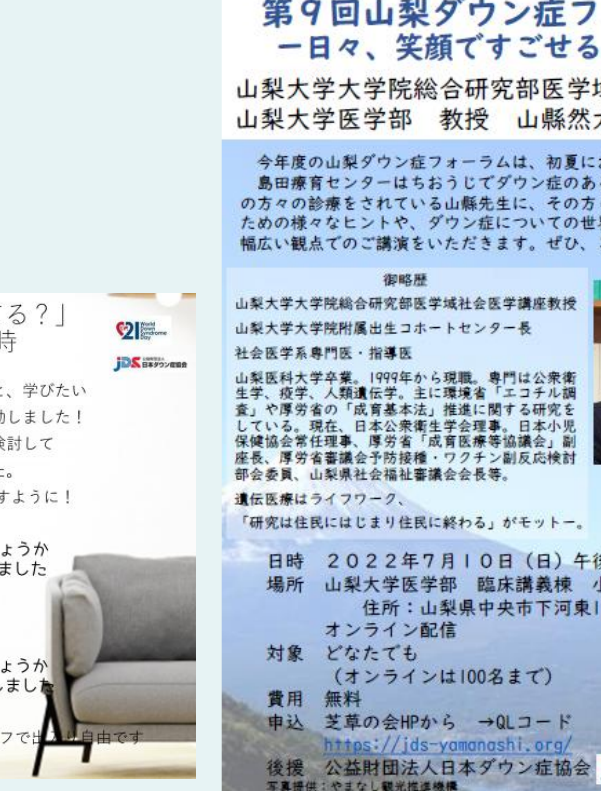


2026年

2025年

2024年

今までの
フォーラム内容・
チラシ等



*改定前2014当時

2015年

2016年

2017年

2018年

2019年

2019年(2020年分)

2021年

2022年

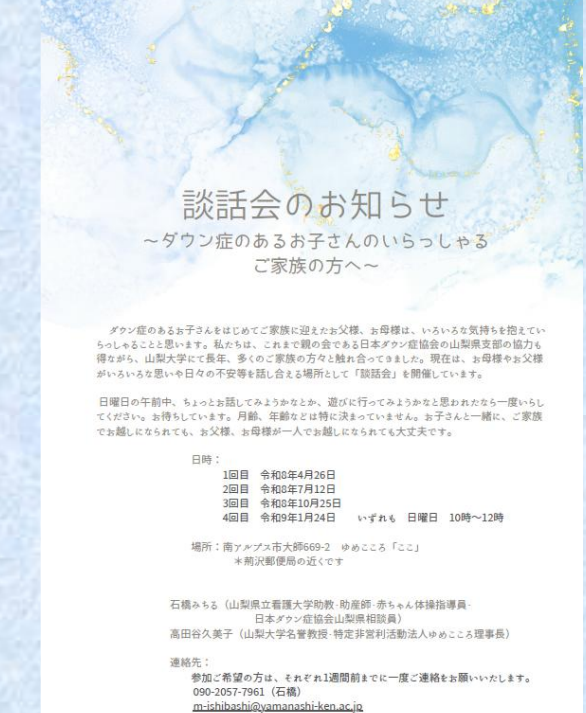
実践3 保育園訪問 児童発達支援センターを利用していないご家庭と保育園との相互理解の橋渡し・保育士向け勉強会の開催 県内5園
ダウン症の赤ちゃん体操を通じた継続的な関わりを通して、家庭内の支援に加え、
保育園生活や成長後の交流に関する支援ニーズを把握するようになったことが背景にある。
体調変化、摂食・水分摂取、コミュニケーション、活動への参加等について、
具体的な支援方法と環境調整を共に検討した。

実践4 リトミック、読み聞かせの会、談話会

赤ちゃん体操児と卒業後の児と家族が地域の中で継続的につながる場
*親の会に限らず誰でも参加可能
2023年～毎回3～10組参加



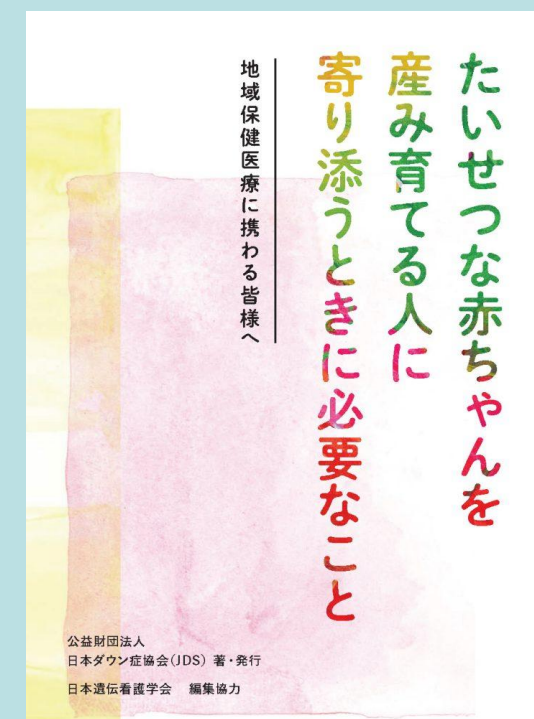
談話会は山梨大学で15年以上継続されてきた会
家族が児の成長発達や日常生活、治療や療育、園や学校での生活、
地域の支援資源など多岐にわたり情報共有し、共感する場



考察・今後の展望

以上の活動は、赤ちゃん体操を通じた関わりを基盤に、児の成長と生活の場の広がりに応じ
家庭、園、地域へと展開し、家族の生活に継続的に関わる支援である。
児の合併症や成長発達の個別性に配慮しながら、児と家族のできることや
楽しめることに焦点を当てる点で、生活に根ざしたヘルスプロモーションの実践とも考えられる。
また、フォーラムは、やまなしローカルでの医療、教育、福祉、保健等の多職種の専門職が
家族とともに連携できる場である。家族のニーズに応じた展開を今後も検討していく。

m-ishibashi@yamanashi-ken.ac.jp



*改定後冊子のDLのQRコード